

GOVERNOR'S MONTHLY LETTER

2009.5/1
Vol.

77

ガバナー月信

2008～2009年度 国際ロータリー第2650地区テーマ「次の世代にときめきを」



目次 ● CONTENTS

地区大会御礼	2
ガバナー補佐随想	3・4
特別寄稿	5
3月会員数の増減および出席率表	6
幹事報告・3月の会員の動き	7

国際ロータリー第 2650 地区 2008~2009 年度

地区大会へご参加の御礼

地区大会実行委員長

中野勝次
(近江八幡 RC)

去る 4 月 11 日～12 日大津プリンスホテルにて開催致しました地区大会には、多数の会員各位およびご夫人のご参加を賜り誠にありがとうございました。

お陰さまで連日晴天にも恵まれ皆様方のご協力により無事予定通り終了させていただくことが出来ました。大会開催中には何かと御不便をかけ、不手際等も多々あったことと思いますがどうかお許し下さい。

RI 会長代理としてお迎えしました台湾高雄の蔡 定邦パストガバナー、令夫人の羅 悅美様、そして秘書として同行されました徐 薇唐様も翌 13 日、京都市内観光をされた後京都で宿泊、14 日午後の便にて帰国されました。

尚、RI 会長代理エイドの橋本 長平パストガバナーご夫妻並びに通訳として連日にわたりお世話いただきました徳田定弘ガバナー補佐には格別のご支援とご協力を頂きましたことを、川端ガバナーはじめ地区大会実行委員会一同に成り代わりまして重ねて厚くお礼申し上げます。

ありがとうございました。





【登美祝部勝見大信秀憲】とは？

勝見秀憲
(守山RC)

「とみのはふりべかつみだいしんしゅうけん」と読みます。もしも明治維新が無かったとしたら、私は大津市の山王総本宮日吉大社でこの姓名で呼ばれて神明奉仕をしていたことでしょう。どう言う事かと言いますと、先ず「登美祝部」とは、天智天皇が志賀の都を開かれた時すでに日吉大社の神主をしていた者を「三大祝部」と申します。紀州から来た「紀祝部」と関州から来た「古登祝部」そして大和から來た、又我が勝見家が属する「登美祝部」であり、【祝部(はふりべ)】とは神主の事を指します。故に我が勝見家は日吉大社の創建以来、代々日吉の社家神主として明治維新まで壹千年以上の長きに亘り日吉大社に奉仕してきたことが日吉の古文書に記されている。因みに「登美祝部」とは【天乃速日乃命】の御神胤を源としていて、後の「物部氏」もその一族であったと記している。

今から四百年余り前の元亀年間、織田信長による比叡山焼き討ちで山王総本宮日吉大社は全てのものが焼失した。この時、私より十三代前の「登美祝部勝見大信一ト」なる御先祖が、兵火の最中に日吉大社の御神体を捧持して他国へ逃れ、十余年後の再建復興時に奉迎したと言う。「秀憲」という名前については、何代か前の名をつけたもので、我が家家の嫡子には「秀英」「秀海」「秀栄」など全て最初に「秀」が付いている。【秀憲】の御先代は我が家系を再興された人物らしいので、私の実印はその秀憲さんが造った印を今も使用している。また勝見家のお墓は、昔も今も日吉大社の近くにある《天台宗西教寺》にあり、その墓石には克明に【登美祝部勝見累世縦塔】と記してある。

「さわやかにロータリー物語に参画を！」と四十九歳の若

い守山ロータリークラブ第二十一代目会長が、初めての例会において大きな声で会員諸兄に呼びかけた。ロータリークラブは『奉仕の理想を各人の個人生活、職業生活および社会生活実践の基盤とすることに同意した、実業人や専門職業人によってできたクラブ』と定義されている。私は二十八歳で創立会員として入会し、チャーターナイトの演出をして三十二歳の若さで幹事を務め、地区委員を始め各委員長・理事・副会長などを歴任し、平成三年七月に栄えある守山ロータリークラブの会長に就任した。普通は青年会議所を卒業してからロータリーやライオンズに入るものが、私はJCとRCの重複会員として十二年間も頑張ったのである。同じ頃PTAも幼・小・中・高の会長を、又神社界の滋賀県神道青年会会长やその全国の議長や近畿の会長を、JCも守山青年会議所第十代目理事長や滋賀ブロックの議長・事務総長なども務めさせてもらった。

長いロータリーライフも約四十年間になりつつあるが【ロータリーとは何か?】と聞かれれば『STATUSだ』と答える事にしている。STATUS(ステータス)とは地位や身分のことを言う。ロータリークラブに入れてもらっている事に大いなる誇りを持ってほしいのである。近年職業奉仕における倫理観が欠落していて目を覆いたくなるばかりだ。私には山王総本宮の元日吉大社の社家である勝見家に生まれたことが気品と風格を育み、御先祖から「悪いことはしたらあかんで勝見家に傷がつくさかいな」と言われ正しい倫理観を備え付けられたと思われる。ロータリーのバッヂに誇りを持ち、ロータリーで眞の職業倫理を学んだ立派な会員が育っていくように祈念申し上げる次第である。



徳のある経営

刀根 莊兵衛
(敦賀 RC)

先日あるクラブの会長から、「昨今のロータリアンによる不祥事件がマスコミ等で報道され、新会員を勧誘するに当たって大変苦慮している。ロータリーの指導者、なかんずく地区役員などは一体どう考えているのか」という厳しい質問がありました。言われるまでもなく、ロータリアンたるもの倫理道徳に対してより厳しい基準を持たねばならないのは当然と考えております。

日本の商道の開祖といわれている、石田梅岩（江戸時代1700年ころ活躍）は『徳』のある商売の大切さを広く世に広めました。梅岩によれば、商人は仁、義、礼 智 が備わっていれば 信を生み、その結果、お客様の信用、信頼が得られて ますます商売は繁栄すると言うことであり、これを兼ね備えれば、信を生む 信用・信頼 商売を繁盛させるということになります。（「仁」とは他人を思いやる心、「義」とは 人としての正しい心、「礼」とは 相手を敬う心、「智」とは知恵を商品に生かす心）

また、わが国近代経済社会の基盤を築いた渋沢栄一も『道徳経済合一論』を唱え、利益の追求も資本の蓄積も同義に合致し、仁愛の情にもとらぬものではなければならないと訴えています。彼は右手にソロバン、左手に『論語』と言う、当時の経済界で正しい倫理的価値観を持つ必要性を主張しました。また、ダスキンの創業者鈴木清一氏も「道と経済の合一」を願う祈りの経営を生涯を通じて追求し、「喜びのたねを蒔こう」、「自分に対して損と得があらば、損の道を行くこと」「大感謝は 大御利益をもたらす」と仰られております。このように日本に古くから脈々と受継がれている商人道の根底にある思想はまさに、シェルトンが主張したロータリーの職業奉仕理念に通ずる考え方だと思います。

ところで、最近の脳科学の研究で、人間の脳には「他人のために何かをする」という利他的な回路があることがわかってきており、他人に「与える」ことは自分が「与えられる」のと同じような嬉しさが脳の中に現われると言われて

います。更に、脳内のドーパミンという『快楽』を生み出す物質は、できると分かっていることや他人から強制されたことをやっても放出されず、できるかどうかわからない、越えるべき障害が高いことに、それを成し遂げたときに大量に分泌され、非常に大きな喜びを得ることができるということも分かってきました。

西村二郎牧師・ガバナーはロータリアンが利他の心をもって奉仕を行うことは、喜びや感動を得ることになり、結果的にこの感動がロータリアンの心の「癒し」にもつながっていくことを我々に教えられました。

「自利利他円満」と言う言葉がありますが、このように自分と他人の利益が重なることが本望ですし、そのように考えますと、日常生活や職業活動も『修行』をする場であり、そのエネルギーは「思いやり」というものではないだろうかと思います。

平澤興牧師・ガバナーはかつて「ロータリークラブの例会は、恕の心と、拝みあう心を身につけるために最も優れた場なのです」と教えられました。平澤牧師・ガバナーが言われる「恕」は、「相手を許し、思いやる心」ということだろうと思います。

このように考えていくと、ロータリーの「奉仕の理想」は現在の市場経済資本主義に対するひとつの解毒剤であるようにも感じます。

これから時代は規模の大小ではなく、お客さまにとって「どうしても大切にしたい会社」、「志」の高い会社が生き残っていくのだろうと思います。

いま、ロータリーが国際的なボランティア団体へと突き進んでいる中で、またこの世界的な100年に一度と言われる大不況の時代だからこそ、日本から「徳のある経営哲学」を発信する大きなチャンスではないかと思います。

「四つのテスト」考

内藤 雅夫
(京都乙訓 RC)

四つのテスト

—— 言行はこれに照らしてから ——

1. 真実かどうか
2. みんなに公平か
3. 好意と友情を深めるか
4. みんなのためになるかどうか

以前、この「ガバナー月信」に「例会出席の大切さ」、「職業奉仕について」、又「ロータリーと奉仕活動について」等拙文を寄せたところ、種々な反応を戴いた。この度「何か・・・・」という連絡を受け、釈迦に説法・孔子に悟道とは存じつつ、表題について一言ふれてみようと思う。この「四つのテスト」は諸賢も既に充分御存知の通り、私共ロータリアンにとって行動の指針として推奨されていて、「規則」として取り扱ってはならないとされ、又公共の人間関係をより高める場合を除いて、販売や利益を増加する目的での広告に利用してはならないものとされている。

1932年ハーバード・テーラーが倒産寸前の会社を再建するために考え出され、良い結果が得られたとして1943年1月にRI理事会はロータリーに採用を決定し、1946年にテーラーがロータリーの使用権を認め、1954年に版権を無償でRIに移譲したが、1976年4月からRIの版権は失効したと言われている。

私共は、各クラブの例会場にこの「四つのテスト」を掲げて、その精神の高揚を促しているが、外来者にはめざとく映るらしく、しばしば話題になることもあり、私共にとっては嬉しいことである。只、私がガバナー補佐としてクラブ訪問した折に気付いたことだが、会場設営の都合だと思われるが、やたら高い所にセットしてあるのを見る時、もっと身近な目線の位置にすべきではないかとも思ったことがあった。「四つのテスト」のうち、私が特に身近に感じ、身を以って実行せねばと思うのが、「みんなの為になるかどうか

か。」という文言である。“Beneficial”つまり有用或は役に立つと言うことは、ロータリーにとって最も大切な要素・基本理念と申すべきものと考える。ロータリーは倫理運動である丈、職業を通じて社会に、又世界への理解と「奉仕の心」の実践が必要であり又大切である。「真実かどうか、みんなに公平か、厚意と友情深めるか」という言葉は、親睦・友情、そして素晴らしい「出会い」による人間関係の構築と職業を通じての利他・有用・寛容と相俟って、信頼を基盤としたロータリー活動が、社会の安定・世界平和に役立つ原動力となり、更なる良き前進機運が生まれれば幸いである。2007年度規定審議会で、会員資格が改定され、具体的にはロータリーの目的・綱領をよく理解し、奉仕活動に献身出来る地域社会のリーダーであれば、一般市民でもロータリーに入会出来ることになった。賛否両論があるにしても、良い刺激剤となり、素晴らしい「若い力」が活性化に寄与されるものなら、大変結構なことである。

先程、「奉仕の心」の実践を申し上げたが、私なりにその心は、Thoughtful,helpful, and beneficial mind to others.つまり、「他人への思いやり・助け合い、そして役立つ心」を指すものである。

以前のロータリーの入会資格は、職業人であることが絶対条件であったのが、最近のRIはこの様に変わったのである。高い論理感を持ち、国際理解・平和願望、その上「奉仕の心」即ち「他人への役立つ心」の持ち主なら、ロータリーの目的を共有しようと言うわけである。

私は平素から、ロータリーとは利他・有用・寛容が原点と思い、「奉仕の心」の実践がロータリー活動の源泉であると信じている。ガバナー補佐の3年間は、数知れぬ多くの出会い、奉仕の心を会得出来たこと、そして京都国際会館前庭に、ポール・パーシー・ハリス月桂樹四世の植樹が成功したことは、総てのロータリアンに感謝・感謝の気持ちを捧げたいと思う昨今である。

幹事報告

◆ 2008~2009 年度 R.I. 第 2650 地区 RYLA PART II

■開催要項

- 【日 時】 2009年5月22日・23日・24日(金・土・日) ●左記日程で2泊3日開催
 22日 11時45分より登録受付(大津港に集合) 開講式 13時 24日(日)13時00分 終了予定
- 【会 場】 22日 琵琶湖汽船大津港 滋賀県大津市浜大津5丁目1-1 077-522-4115
 22日午後～ びわ湖バレイ 滋賀県大津市木戸1547-1 077-592-1155
- 【交 通】 琵琶湖汽船大津港 京阪浜大津駅徒歩3分 JR琵琶湖線大津駅よりバス5分
 びわ湖バレイ 名神京都東IC～湖西道路「志賀IC」より5分
- 【参加者】 受講生 85名 地区役員・地区委員 約15名 ロータリアン 85名(カウンセラー)
- 講師予定 講演 県立琵琶湖博物館 学芸員(株)イー・キュー・ジャパン 代表取締役 高山 直氏
- 開催協力 びわこ成蹊スポーツ大学

◆地区協議会のお知らせ

国際ロータリー第2650地区 2009～2010年度 地区協議会・第1回合同地区委員会が開催されます。

日 時 : 2009年5月9日(土)12:10～17:00

場 所 : 国立京都国際会館

GSE (研究グループ交換) プログラム新規サイト公開 ! <http://gse2650.jp/>

この度、GSE 委員会では、国際ロータリー財団の教育的プログラムとして今まで、44 年の実績を重ね、他に類を見ない若き職業人のための研修奨学制度として、当プログラムの存在を広く認知いただき、96 クラブそして会員の皆様の共感とご協力をお願いいたしましたホームページを開設させていただきました。

ロータリー財団(第 2650 地区) GSE (研究グループ交換) プログラム
<http://gse2650.jp/>

当サイトでは、GSE (研修グループ交換) の概要のみならず、

- ・プログラム参加者の視点
- ・参加者を送り出した経営者の視点
- ・現在参加中のメンバーの視点

の 3 つの視点からプログラムを紹介し、更にその有用性をご理解いただけるよう努めました。

これからこのプログラムに参加したい、また、自社の社員を参加させたい経営者の方々などにも参考になる内容にしておりますので、是非ご覧いただき、周りの関心のある方々にもご紹介いただきたく存じます。ご協力、どうかよろしくお願ひいたします。



2009 年 3 月会員の動き

弔 慇		
謹んでお悔やみ申し上げます		
	白井 久雄 様	京都洛中RC 2月8日 ご逝去 57歳
	尾賀 義雄 様	近江八幡RC 2月21日 ご逝去 83歳
	中川 利夫 様	京都RC 3月6日 ご逝去 71歳

◆新入会員

京都	天江 喜七郎	会議場
京都山城	川口 栄司	銀行
福知山	大村 友規	歯医者
京都洛北	安田 克彦	駐車場
京都東山	村田 好謙	漆工芸
京都東山	竹之内 米貴	貨物自動車運送
生駒	鈴木 秀幸	銀行
大和高田	西田 陽昭	電気工事

勝山	織田 昌弘	建築設計
福井	高野 寛教	旅行業
福井フュニックス	牧野 作真	日用品卸販売
若狭	内田 静穂	税理士
滋賀湖北	葛川 瞳	賃貸仲介
八日市南	梅本 晃志	レストラン
大津西	饗庭 昭彦	内科医
長浜東	小山 英則	弁護士

地区大会ひとコマ あれこれ

多数のご参加ありがとうございました



Kyoto/Nara/Fukui/Shiga
R.I.D.2650
2008-2009

国際ロータリー第2650地区
2008-2009年度 ガバナー 川端 五兵衛
■ガバナー 事務所
〒523-0892 滋賀県近江八幡市出町413-5
Tel.0748-31-2650 Fax.0748-31-2651
E-mail:gov08-09.2650@joy.ocn.ne.jp